

## はじめに

本報告書は、平成 22 年度に取り組んだ千葉大学大学院人文社会科学研究科研究プロジェクト「起業家教育に関する実践的研究」（研究代表者：藤川大祐 千葉大学教育学部教授）の成果をまとめたものである。

「起業家教育に関する実践的研究」の中心は、千葉市と千葉大学との連携研究事業として行った「西千葉子ども起業塾」の取り組みである。

千葉市は、将来の産業振興を担う人材を育成することを目的として、平成 21 年度から、小・中学生を対象とした「キッズ・アントレプレナーシップ教育（起業家教育）」の推進に取り組んでいる。子どもたちのアントレプレナーシップすなわち起業家精神を喚起・涵養しようとするのがねらいである。

平成 22 年度は、起業体験を重視することや、数日間にわたるプログラムを開発することなどを目標として、新たに「西千葉子ども起業塾」の開発と実践を試みた。

「西千葉子ども起業塾」の実践の概要については、藤川・阿部・川瀬（2011）「地域連携による起業家教育プログラムの開発—「社会起業家教育」としての「西千葉子ども起業塾」の試み—」（千葉大学教育学部研究紀要）で論じたが、そこだけでは論じきれない示唆深い観点について考察してゆくことが課題として残っていた。

そこで、本報告書においては、「西千葉子ども起業塾」についての以下の論考を掲載した。

ひとつは、藤川大祐による「起業家教育の実践をどのように開発するか—「西千葉子ども起業塾」開発過程をふまえて—」である。ここでは「西千葉子ども起業塾」開発の過程を振り返り、小学生を対象とした起業家教育プログラムの開発に何が必要かを考察し、起業家教育の概念を捉えなおすことを提起した。

もうひとつは、阿部学（千葉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程）による「地域連携による「社会起業家教育」の構造と意義—教育学部生と起業家への事後調査から—」である。「西千葉子ども起業塾」に関わった大学生と起業家への事後調査から、「西千葉子ども起業塾」の構造と意義を包括的に明らかにすることを試みた。

また、今後の「西千葉子ども起業塾」の展開に示唆を与えうる、起業家教育全般に関連する論考もあわせて掲載した。

ひとつは、阿部学による「ミメシス概念がしめすキャリア教育の教育方法への示唆—大澤真幸・宮台真司『「正義」について論じます』をたよりに—」である。大澤・宮台のいうミメシス概念が、起業家教育を含めたキャリア教育の教育方法にどのような示唆を与えるか検討した。

もうひとつは、深川愛子（千葉大学大学院教育学研究科修士課程）による「アグリビジネスを題材とした授業づくり—地方銀行の取り組みを例として—」である。深川は、アグリビジネスを題材とした産業学習の授業づくりについて、実際に地方銀行と連携しながら研究をすすめている。現段階での研究の方向性を、研究ノートとしてまとめた。

是非、あわせて参照いただきたい。

千葉市と連携した起業家教育の取り組みは今後も継続する予定である。本報告書にまとめたことを踏まえ、よりよい実践を創造してゆきたいと考えている。忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

最後に、本研究にご協力いただいた皆様に、この場を借りて感謝を申し上げます。

千葉大学教育学部教授  
藤川 大祐